

EU Indicators

欧州経済指標コメント：1-3月期英国GDP

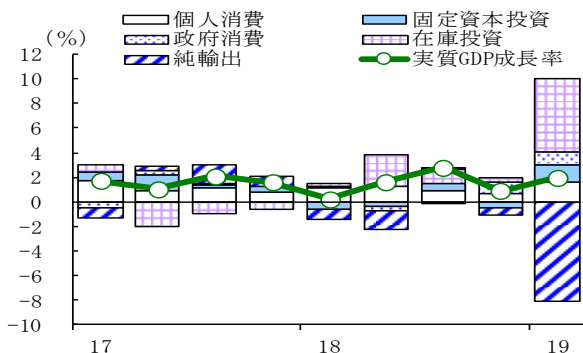
発表日：2019年5月13日(月)

～ブレグジット不安が成長押し上げに～

第一生命経済研究所 経済調査部
 首席エコノミスト 田中 理
 03-5221-4527

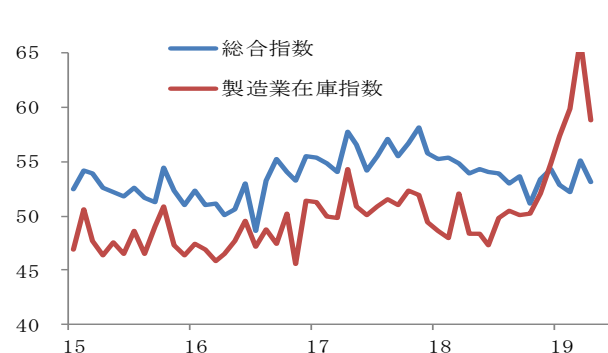
- 10日に発表された英国の1-3月期実質GDP成長率は前期比+0.5%、同年率+2.0%と、昨年10-12月期（同+0.2%、同年率+0.9%）から再加速。輸出低迷と輸入急増による外需の大幅なマイナス寄与（前期：同▲0.2%ポイント→今期：同▲2.1%ポイント）を、個人消費（同+0.3%→同+0.6%）と政府投資（同+0.5%→同+8.1%）の増勢加速、設備投資（同▲0.9%→同+0.5%）の5四半期振りプラス転換、政府消費の高い伸び（同+1.3%→同+1.4%）、在庫投資の大幅なプラス寄与が相殺。これは3月末の英EU離脱協議期限（当時、現在は10月末に再延期）を控え、合意なき離脱に備えた個人や企業の在庫積み増しと政府の準備対応が成長率の押し上げに働いたため。
- ブレグジット対応の一巡により、4-6月期の成長率は反動が予想される。ただ、1-3月期の成長率を押し下げた輸入急増も合意なき離脱に備えた在庫積み増しを反映したものとみられ、この点は逆に成長の下支え要因になりそうだ。4月のPMIは、製造業（前月：55.1→53.1）の改善モメンタムが鈍化した一方で、サービス業（48.9→50.4）と建設業（49.7→50.5）の業況判断が揃って好不況の分岐点である50を回復し、全体（総合PMI）では50.9と1-3月期平均（50.6）からやや持ち直した。ブレグジット関連の在庫積み増しが1-3月期の製造業の業況を嵩上げた面もあるが、良好な雇用・所得環境など景気を下支えする要因は崩れていない。

■英国：実質GDP成長率（前期比年率、%）



出所：英統計局

■英国：実質GDP成長率（前期比年率、%）



出所：IHS Markit

■英国GDP（前期比年率<%>、括弧内は寄与度<%ポイント>）

	名目GDP	実質GDP	内需				外需		輸出	輸入
			個人消費	政府支出	固定資本投資	在庫	輸出	輸入		
17/1-3月期	4.9	1.7	(2.6)	2.8	▲2.5	4.1	(▲1.8)	(▲0.8)	0.6	3.5
17/4-6月期	1.5	1.0	(0.7)	1.5	2.0	7.8	(▲10.6)	(0.3)	5.1	3.7
17/7-9月期	4.3	2.1	(0.5)	1.8	0.4	1.1	(▲2.9)	(1.6)	7.9	2.2
17/10-12月期	4.1	1.6	(0.8)	1.3	0.1	2.6	(▲3.2)	(0.8)	0.4	▲2.2
18/1-3月期	2.7	0.2	(1.1)	1.9	0.7	▲3.1	(1.6)	(▲0.8)	▲5.1	▲2.3
18/4-6月期	2.7	1.6	(3.2)	2.0	▲1.6	▲2.2	(5.0)	(▲1.6)	▲3.8	1.6
18/7-9月期	4.7	2.8	(2.7)	1.4	▲0.3	3.5	(▲2.0)	(0.1)	3.5	2.9
18/10-12月期	2.7	0.9	(1.5)	1.1	5.3	▲2.5	(▲2.3)	(▲0.6)	6.6	8.6
19/1-3月期	3.9	2.0	(10.0)	2.5	5.7	8.6	(▲6.7)	(▲8.0)	0.2	30.2

出所：英統計局

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。